

## プロジェクト科目 議事録

2006年 7月 1日提出

プロジェクト科目 テーマ名 小学生のための能楽入門プログラムの開発と研究	
記録者氏名 C	学生ID -
日時 2006年 6月 30日(金) 15:00 ~ 18:00	
場所 寧静館501	
議題 体験ブースでの謡曲、発表会・各ブースの形式、場所決定、必要資源・人材の洗い出し	
参加者 A、C、D、E、G、H、T、TA	
記録 <p>☆ 体験ブースで使用する演目について</p> <p>WSの謡曲候補『羽衣』『鞍馬天狗』『賀茂(加茂)』の3つについて、メンバーの意見が出る。</p> <p>A) 紙芝居に関連のある『羽衣』がいいとも思うが、扇を開くのが難しく、それを教える時間が必要になるので、採用は困難である。</p> <p>G) 紙芝居ブースと展示ブースが別の場合、紙芝居で『羽衣』を見られない人もでてくるかもしれないから、その場合、『羽衣』を採用することによる統一感というものがなくなる。『賀茂(加茂)』は「とどろとどろ」という擬音語の部分が印象的で児童の受けがよいのでは。</p> <p>C) 『賀茂(加茂)』はテンポが軽快で、金剛流能楽師aも教えやすいと言っていたので、よいのでは？また、扇を使うが、それを開かないのが『賀茂(加茂)』のよいところ。扇が団扇・扇子と違い、仰いで風を起こす道具なのではないということを認識させることに繋がる。つまり、児童が扇を能特有の道具の一つとして捉えてくれるはずである。</p> <p>その他のメンバーの意見からも、『賀茂(加茂)』に難点が見られないということで、謡曲は『賀茂(加茂)』で満場一致した。尚、第二候補は『羽衣』に決定したが、能楽師側に交渉する際には、『賀茂(加茂)』のみをまず話題にし、了解が得られない場合に初めて『羽衣』を提案したほうが、『賀茂(加茂)』が謡曲として決定する可能性が高くなるであろう。</p>	

※扇の手配について

- ・能楽協会…貸し出しなし
- ・扇屋さんから購入…子供用の一番安いもので3200円より

☆ 金剛流と観世流の合同発表会について

T) One Purpose(同志社大学学内情報誌)でプロジェクト科目全体の特集を組むことになり、本プロジェクトが例として取り上げられる。WS当日にカメラマンとライターが取材に来る予定。同志社学内にはWS内容が公表される。また、マスコミにもプレスリリースをかけるので、安易にはこの合同発表会は実行できない。また、学生に対しても「常識がないのではないか」という社会からの批判が全く無いとは言いきれないので、能楽師、能楽協会、学生共に被害を受ける可能性がある。最終的に発表会ができればよいので、危険は避けるべき。

T) いつでも最悪の事態を考えるべき。相手から了解が出て、自分たちが配慮しようとしていることで譲る必要がないときもある。

☆ 体験ブースについて (①案にするか②案にするかを検討することになった。)

①案 (以前より出ていた案)

金剛流：舞のみを教える 6人×2グループ (計12人)

観世流：謡のみを教える 18人×2グループ (計36人)

太鼓：6人×2グループ

↓

金剛流(12人)+太鼓(6人)、観世流(36人)+太鼓(6人)、計2回の発表会。

②案 (先週練った案)

1回20分(20人)×3グループ

金剛流：舞2人、謡5人

観世流：舞2人、謡5人

太鼓 6人

↓

金剛流+太鼓の発表会が3回、観世流+太鼓の発表会が3回となり、合計6回の発表会。

⇒②案は時間的に不可能ということから、①案に決定した。

☆ ①案のタイムテーブル (暫定的)

※A、Bグループともに舞6人、謡18人、太鼓6人

※時間は開始時間

	Aグループ		Bグループ
13:00		開会式	
13:10	体験ブース		展示ブース
13:40		移動	
13:50	展示ブース		体験ブース
14:20		移動	
14:30		リハーサル	
14:40		発表会	
14:50		閉会式	

☆ リハーサルをアリーナ（体育館）にするか、教室にするか

アリーナにするとひとつの空間になるため観世流、金剛流が同時にリハーサルできず、リハーサルを見ている側の児童がじっとしていることができないなど不安要素が多い。また、リハーサル後に保護者の入場時間を設けなければならない。一方、教室にする場合、観世流・金剛流の教室を分けることによってリハーサルを同時に行うことができ、リハーサルの間に保護者にアリーナへ入場してもらうこともできる。よって、アリーナ以外の場所でのリハーサルが望ましい。

☆ 展示・紙芝居ブースについて

G) 紙芝居は3つの物語を別々の場所で同時にするのか、または場所を固定して1つずつ順番にするのか？

(紙芝居の所要時間：『道成寺』6分、『羽衣』4分、『安宅』8分)

T) これらの物語をただ紙芝居として読むだけでなく、何か関連するものを展示ブースで設けないともったいない。

→それぞれの物語に関連のある道具・装束等が必要である。

場所については、展示と紙芝居を完全に別々のブースにするか、一つの会場にまとめるかの2つの案があり、後者の場合①紙芝居を2階の小舞台で行い、周りの廊下に装束などを展示する方法（※この場合装束への直射日光を避けるため、カーテン等が必要になる。遮光設備を小学校側に確認する必要がある。）と、②チャペル内で展示と紙芝居を両方行う方法が提案された。

T) チャペルで展示・紙芝居をすれば、30人が一度に入ることが可能であり、また独特な雰囲気が出てよいのでは。展示については、フック形式にするか、衣桁（着物<sup>いこう</sup>）などをかけるための道具）形式にするのかを決めなければならない。

☆ 必要な機材・道具等

デジタルカメラ：9台（プロジェクトメンバー全員+TA）

ビデオカメラ：4台

ビデオカメラ用テープ：80分×10本

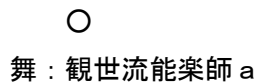
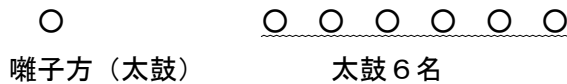
リボン（または名札・シール）：児童の人数分

→児童の誘導を円滑にするため必要である。

場所	必要な人（外部）	能プロメンバー
舞：多目的室	金剛流能楽師 a + 1名	1名
謡：家庭科室	観世流能楽師 a + 1名	1名
太鼓：音楽室（2F）	囃子方（太鼓）+ 1名	1名
展示：和室またはチャペル		TA
紙芝居：小舞台またはチャペル	読み手（3名）	1名
リハーサル：舞→多目的室 謡→家庭科室		
開会式、閉会式、発表会：アリーナ	その他：誘導（先生方）	司会（1名） その他：誘導（1名）フリー（2名）

☆発表会のイメージ

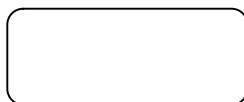
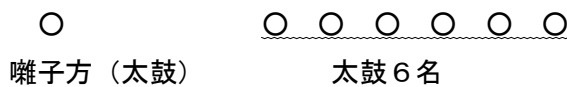
・観世流グループ



謡：36名

☆補助として観世流能楽師1名

・金剛流グループ



謡：金剛流能楽師 a

☆補助として金剛流能楽師1名

T) これで何をするのか (What) は決まった。次に、どのように行うのか (How)、いくら必要か (How Much) をつめていく必要がある。

☆ 今後の課題

- ・ 予算
- ・ プログラムの内容・各教室内の配置
- ・ 装束 (展示方法・使用する備品も含め) の手配
- ・ 機材・人の手配の仕方
- ・ 機材のチェック、下見の日程
- ・ 見取り図 (Hが担当)

☆ 能楽師さんの来校可能な日程

観世流能楽師 a : 7月3日午前中、7日講義時間

金剛流能楽師 a : 3日、11日、12日、13日

→7月3日10:45~寧静館501教室に能楽師をお招きして企画会議を行うことになったが、囃子方 (太鼓) が来られるかは未定。